

## 6. 教育上の目的に応じ、学生が修得すべき知識及び能力に関する情報 (主要科目の特長・到達目標)

### ①人間コミュニティ学科（仏教コース／司書・心理コース／メディアコース）

#### 仏教コース 1年 前期

主要科目	特長	到達目標
真宗学概論Ⅰ	親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の内容を体系的に学びます。どのようにしてこの教えが形成されていったのか、またその背景にあるものは何か、特に所依の経典である、「浄土三部経」を中心にみていきます。	専門用語に慣れるとともに、真宗を学ぶ基礎ができるようになる。
宗教コミュニティ実習	寺院の法要、法座の実際の終始を学び、多岐にわたる寺院活動の一端に触れるとともに、自ら僧侶としての聞法の姿勢を培っていきます。	寺院活動における実践力を身につける。
勤式作法Ⅰ	現代の声明法は難解ですが、得度習礼および教師教修に必要な勤式作法の基礎的学習を中心に学びます。	「正信念仏偈」（草譜・行譜）を正しく暗唱できるようになる。

#### 仏教コース 1年 後期

真宗学概論Ⅱ	親鸞聖人の教義の背景としての「浄土三部経」を中心に学びを深めてきた「真宗学概論Ⅰ」を承けて、親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の教義内容を学ぶ。	真宗の教義の概要が理解できる。
仏教入門	21世紀に入り、世界では様々な問題が噴出し、人々は精神的に大きな苦悩を抱え、強く明るく生きることが困難になってきています。このような現実には仏教はどう応えるのでしょうか。「人間として真に生きるとはどういうことか」について考えていきます。	仏教の開祖・釈尊の生涯とその教え、仏教思想の流れ、日本における仏教の歴史について理解できるようになる。
勤式作法Ⅱ	得度習礼及び教師教修において必要な勤式作法の基礎を学ぶ。	先請伽陀を正しく暗唱し、登礼盤・降礼盤作法ができるようになる。

## 仏教コース 2年 前期

主要科目	特 長	到達目標
真宗の經典Ⅲ (七祖の言葉)	浄土真宗の開祖親鸞聖人が他力念仏の伝統の中に見いだされた七人の高僧を取り上げ、それぞれの著述の中から重要な部分を講読し、親鸞聖人の思想展開を考察する。	浄土真宗の七高僧の思想を学びます。それぞれの高僧方の念仏思想を学び、それがどのように親鸞聖人の説かれた浄土真宗の教義に展開されたかを理解することができるようになる。
仏教学概論Ⅰ	この授業では、仏教学の基礎を学びます。前期の授業では、仏教とはどんな宗教なのか、仏とはどのような存在なのか、釈尊はどのような生涯を送られたのか、釈尊は何を説かれたのか、等に焦点をあて、テキストに沿って学んでいきます。	釈尊の生涯とその教えについて、詳しく説明できるようになる。
ビハーラ活動論	親鸞の言葉に基づく傾聴、ビハーラ活動。人の悩みに出会ったときにどう接したらいいかを、授業を受けながら考え実践してゆく。また、自分からそういう場（老人施設、病院、友人や家族関係）で、傾聴などボランティア活動をする中でビハーラ活動とは何かを考えてみる。	ビハーラ活動（傾聴活動、遺族ケア、その研修活動）の実践とそのための基礎知識を学ぶことができるようになる。
真宗の思想Ⅱ (教行信証)	浄土真宗の教義の要ともいえる行信について、「教行証文類（教行信証）」の「行文類」を、その御自釈を中心にして学びます。真宗の特色である、「行」について、また他力について、その真意を理解できるようにします。	浄土真宗の「行」についての的確に理解できる。

## 仏教コース 2年 後期

仏教学概論Ⅱ	前期に引き続き、仏教の基本的な概念について講義をします。後期の授業では、仏教における法の位置づけ、輪廻と業の考え方、「悟り」に向かう実践方法等について、テキストに沿って学んでいきます。	インド思想の中での仏教の考え方、輪廻の考え方について、一通り説明できるようになる。
専門演習Ⅱ	前期の演習（「専門演習Ⅰ」）で学習したことをふまえて、仏教・真宗に関するそれぞれの研究テーマに取り組む。この演習を通して、研究内容が少しでも深まるよう努力し、2年間の総決算としての卒業レポートを作成する。また、演習参加者全員でのディスカッションを心がけ、理解が深まるようにする。	各自の研究テーマにそってレポートを作成できる。
宗門法規	浄土真宗本願寺派教師資格（住職になるための資格）を取得することを目的としている。宗教法人の組織や活動がどのような内容であるかを講義する。	寺院住職となる基礎知識を身につけ、僧侶としての覚悟を決めることができる。

司書・心理コース 1年 前期

主要科目	特 長	到達目標
図書館概論	社会教育の中核となる図書館の理念と成り立ち、図書館の自由、法規や行政について等、図書館に関する基本事項を学習します。	知的関心の対象として基礎知識を身につけると同時に、発展のためにどういう工夫が必要かを主体的に考える力をつけます。
図書館サービス概論	図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障がい者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説する。	①資料サービスの概要を説明することができる。 ②情報提供サービスの概要を説明することができる。 ③各種図書館サービスの概要について説明することができる。
図書館情報資源概論	図書館の業務として情報資源を扱うためには、対象となる多様な情報資源の理解をはじめ、出版や流通、資料の選択と収集、評価、保存管理など、さまざまな面からの知識が必要です。この授業では、情報資源の類型とその特質、生産と流通に関する基礎知識の理解、さらに図書館における蔵書構築の理論や方法、選書ツールの利用法、図書館業務に必要な受入・除籍・保存・管理のための基礎を学習します。	図書館情報資源について類型ごとにその概要や特質を説明することができるようになる。 図書館情報資源の選択、収集、蔵書管理について簡単な説明ができるようになる。 資料管理の実際について理解し活用することができるようになる。
心理学概論A	本講義は心理学に対する興味・関心を高めるための入門編にあたります。認知心理学・発達心理学・教育心理学・臨床心理学・社会心理学・学習心理学を中心に、行動に現れる人の心に関する研究を幅広く紹介し、実際に体験しながら、人間の心のしくみについて理解を深めます。	人間の心理について、認知心理学、発達心理学、教育心理学、臨床心理学、社会心理学など幅広く学習することで、人の心について一定の説明ができる。
ビジネス実務総論	職業人としての基礎的な実務能力を備え、ビジネスの現場における実務において個人業務や関係者との協働業務を通して、価値を創出する能力について解説する。ビジネス実務の知識・スキルだけでなく、ビジネス変化やワーカーに求められるもの、自分のキャリア形成などについてもふれ、組織の中で仕事をする際に必要となる基礎的知識や心構えを中心に講義を進めていく。また、グループワークでマニュアル作成をし、協働作業、PDCAを体験させる。	組織システムについて説明することができる。 ビジネス実務の基礎知識、基本的技術の重要な点を説明することができる。 ビジネス実務の推進力・能力開発に大切なことを説明することができる。 ビジネス実務を通して、協働、PDCAを理解し、キャリア形成に大切なことを説明することができる。
臨床心理学概論A	臨床心理学は、対人援助のためのアセスメントや援助、コンサルテーションなど様々な要素から成り立ちます。その背景となる理論について概観し、臨床心理学に関する知識を修得することを目的としています。また、演習の中では実際の援助や心理検査を実施することで体験的な学びとなることを目標としています。	臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助、研究・調査の基礎について学びを理解すること。臨床心理学における諸倫理に基づき、人格や病理、発達について説明できるようになる。

司書・心理コース 1年 後期

主要科目	特 長	到達目標
図書館制度・経営論	図書館という知的・社会的資産を作り発展させる法律や制度を学び、実際に運営するための公共経営のあり方を考え司書の仕事を総括的に理解します。	組織としての図書館を成立させる法や制度、そして運営のための経済的な基盤を理解し、日常的な業務と同時に、社会制度としての図書館の任務と使命を説明できる。
学校教育概論	学校教育の意義と目標、教育課程や学習指導要領、児童生徒の心身の発達及び学習の過程、特別の支援を必要とする児童生徒に対する理解、等を学習します。	①学校教育の意義と目標、②教育行政と学校教育、③教育課程の意義と学習指導要領、④学校教育と教科書、⑤児童生徒の心身の発達及び学習の過程、⑥特別の支援を必要とする児童生徒、等の学校教育の諸課題を理解し、学校司書の職務が説明できる。
情報資源組織論	図書館で扱う印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク資料からなる情報資源の組織化の理論と技術について概説し、図書館でどのような情報資源組織化の手法が用いられているか目録法と分類法を中心に、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等について学習します。	(1) 情報資源組織化の概念およびその方法について理解し説明できるようになる。 (2) 情報資源組織化の基本ツール（日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表）に関する知識について説明できるようになる。 (3) ネットワーク情報資源のメタデータの概念について理解し要点を説明することができるようになる。
情報サービス論	図書館における情報サービスの概要を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索等に関する理論と実際、参考図書・データベース等の情報源の利用法について解説する。さらに、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しい領域の情報サービスについて紹介する。併せて、学校図書館における、情報サービスの種類や各種情報源の特性の理解を図るとともに、児童生徒に資料・情報を適切に提供できる能力の育成を図る。	(1) 情報サービスの種類や方法について説明することができる。 (2) レファレンスサービス、情報検索に関する理論的な知識について説明することができる。 (3) 情報サービスの各種情報源を利用することができる。 (4) 発信型情報サービス、図書館利用教育、学校図書館における情報サービスについてその意義を説明することができる。

司書・心理コース 2年 前期

主要科目	特 長	到達目標
情報管理論	<p>情報と生活のかかわりを知り、情報の発生から収集・加工・蓄積・検索・提供・廃棄に至るプロセスを、総合的に管理するための知識・技術について講義する。特に組織における記録管理に焦点をあて、記録管理総論、関連法制度等、紙文書の管理、電子文書管理とそのために必要な IT の基礎、アーカイブズ等について学習する。本授業では記録情報管理士検定受験のための基礎養成にも対応する。</p>	<p>情報管理の重要性について説明することができる。</p>
情報技術論	<p>情報通信技術が急激に進展していくなかで、情報に関する専門的な知識を習得し、活用していくことの重要性が高まっている。前半で、コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、コンピュータシステム等について学ぶ。後半は、図書館業務を中心に、情報機器の利用例や図書館情報システム等について学ぶ。</p>	<p>情報通信技術の役割や仕組みを説明することができる。 図書館の情報技術活用を説明することができる。</p>
児童サービス論	<p>子どもが本と出会う過程で児童図書館員の果たす役割はきわめて大きく、その後の読書とも大きく関わってきます。絵本からヤングアダルト図書までの目配りと、読書への導入の技術を確かなものにしていきます。</p>	<p>相手に応じたブックリストの作成の理論を理解し、実践できる力を身につける。ブックトークや読み聞かせ・読み語りの理論を理解し、実践する力を身につける。</p>
カウンセリング概論 A	<p>本講義は、臨床心理学全般の基礎的知識を踏まえながら、カウンセリングや心理療法に関する基礎知識を習得することや自己についての洞察を深めること、自分自身について知ることを目的とします。形式は講義形式+演習形式で行います。</p>	<p>カウンセリングや心理療法に関する基礎知識を説明することができる。</p>
学校図書館概論	<p>学校図書館の教育的意義や学校司書の職務の基本的事項について学び、学校図書館が学校教育に欠くことのできない施設であることを理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校図書館の位置付けと機能・役割を理解し説明することができる。</li> <li>2. 学校司書の基本的職務内容を把握し述べることができる。</li> </ol>

司書・心理コース 2年 後期

主要科目	特 長	到達目標
<p>図書・図書館史 ／図書館施設論</p>	<p>1、記録メディアの歴史、世界と日本の図書館の歴史とのつながりを理解する。 2、戦後改革・戦後民主主義と図書館改革を整理することで、科学技術と図書館についての歴史を把握し、今後の展望を考える。 3、建物の設計・館内の配置などを専門家の視点から概説し、優れた図書館運営ができるように環境整備する力量をつける。 4、館内・館外を含めて、幅広い視点からよりよい図書館の建設と運営の方策を説明する。</p>	<p>1、記録メディアの歴史、印刷術の発達や図書館の歴史を学ぶことによって、図書館の存在意義や機能をより深く理解し、これからの図書館のあるべき姿を構想して、理解できる。 2、利用者・管理者・設計者の視点から、施設設備の充実を理解し、説明できるようになる。また、利便性と安全性の向上を目指す物差しを身につけ、実際の施設で改善点をみつけ、改善策を提案できるようになる。</p>
<p>専門演習Ⅱ</p>	<p>司書・心理コースの学びを集大成する科目の一つで、司書資格・学校司書資格取得の必修科目である。具体的には、「専門演習Ⅰ」で学んだことに加えて、複数の専門家の視点を学ぶことをとおして、学んだことを整理して、発信できることを目指す。さらに、自ら集めた材料をもとに自分の考えを論理的にまとめたレポートを完成させることを目的とする。</p>	<p>次のどちらかの形式で、事実をもとに自分の考えを論理的に説明するレポートを作成できる。 1 小論文1＝「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の学修内容を整理して、論理的に考える自分なりの学修方法方や生き方について。 2 小論文2＝「専門演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをもとに、事実や時代の方向性について分析し、共働して築く社会について。 論題に対して、資料を収集・整理・分類して、論理的客観的な分析と考察を加えてレポートを作成できる。</p>
<p>学習指導と学校図書館</p>	<p>学習指導における学校図書館のメディア活動について学び、学校司書として児童生徒に実施すべき学習指導について理解する。</p>	<p>主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングの視点からの学び)を効果的に進める基盤としての学校司書の役割とその方法を身に付け実践することができる。</p>
<p>読書と豊かな人間性</p>	<p>司書・心理コースの学びを集大成する科目で、学校司書資格取得の最終科目である。本と読書の価値を掘り下げ生涯にわたる人間的成長を促す知識と実践をともに学ぶと同時に、それを支える図書館・学校図書館の役割を学び理解する。</p>	<p>資料の収集・整理・提供というサービスを通し、さまざまな地域や年代のさまざまな生き方をする人の生き方考え方を学び、自分の見方考え方を広げ豊かにしていくとともに、身につけた豊かな人間性を表現することによって、周囲の人と協働してよりよい社会を生きることを理解し実践する。</p>

### メディアコース 1年 前期

主要科目	特 長	到達目標
撮影基礎	デジタルビデオカメラの撮影技法の基礎を学び、テーマを決めながら撮影演習を行います。	ビデオカメラの操作から撮影技法までを習得します。意味のある映像が撮影できるようになる。
映像編集 I	動画編集ソフトを使ってノンリニア編集技法を学び、その技術を使ってショートムービーを制作します。	動画編集技術を身につける。操作技術だけでなく、編集テクニックを向上させる。
放送とアナウンス論 I	放送の歴史を学ぶとともに、様々なアナウンス技術の基礎から応用までを学びます。	電波媒体である放送のシステムと放送現場の概略や雰囲気などを理解することができる。また、訓練によって聞きやすい声をつくり、はきはきした話し方の習得を目指す。
映像・放送実習 I	制作プロダクション、CATV局、AM・FMラジオ局、音響・照明プロダクションの現場で見学や体験を通してプロの業務を学びます。	制作スタッフの中で自分が目指す道、取り組んでいくジャンル（スキル）を明確に定め、大学との講義と関連して理解を深める。

### メディアコース 1年 後期

主要科目	特 長	到達目標
シナリオ	映像制作の設計図ともいえるシナリオ（構成台本）について、作成上の基礎について学びます。	与えられたテーマで、作品の企画を提案し、実際に作業できるシナリオ・構成台本が書けるようになる。
映像編集 II	「映像編集 I」で学んだノンリニア編集技法の応用と編集理論を学び、より完成度の高い編集技術を身につけます。	編集技術をさらに向上させる。マルチカメラ編集など、高度な編集技術も身につける。
音声表現法 I	就職活動や社会人として求められる表現力や構成力を実践トレーニングを通して身に付けていきます。	パブリック・スピーキング（=公的な場などで自分の言いたいことを筋道立てて相手に分かるよう話す）を体得できるようにする。

### メディアコース 2年 前期

主要科目	特 長	到達目標
ドキュメンタリー研究	優秀なドキュメンタリー作品を鑑賞しながら、ドキュメンタリーの本質と社会に果たした役割を学び、制作者としての視点や考え方を身に付けます。	社会事象や身の回りの出来事、人間関係等を取材対象として捉える感性を養い、それらのテーマにドキュメンタリーを構成する認識を高めていくことができる。
専門演習Ⅰ	グループごとにリポーター、ディレクター、カメラマンと役割を決めてミニ番組を制作していきます。	短時間の番組制作を通して、映像制作に必要な段取りや人との接し方を学修する。
デジタルデザイン基礎Ⅱ	Adobe Illustrator を使って、ベクトル画像を扱うドロー系のグラフィックを基礎から応用まで学びます。	イラストやポスター制作ができるようになる。

### メディアコース 2年 後期

主要科目	特 長	到達目標
制作実習Ⅱ	チームを組んで作品を制作します。これまで学んだ映像制作の知識を活かして、映像作品を制作する能力をさらに高めていきます。	一人一人が時間、人員、機材といった制約の中で制作を完遂する意識を高め、映像制作の楽しさや喜びを学ぶことができる。
専門演習Ⅱ	アナウンス、放送原稿、撮影、映像編集で学んだ知識と技術を使ってお天気中継の番組制作にチャレンジします。	映像制作に対する方法論や姿勢を活かして自分なりの表現力を磨けるようになる。
放送原稿Ⅱ	取材で得た情報を「耳で聞いて分かりやすい」原稿にする能力の深化を図ります。	自分で取材した情報を制限時間内に決められた秒数の原稿にまとめることができる。



## ② 保育学科

< 1年生 >

主要科目	特 長	到達目標
保育者論	現代社会における教育・保育の重要性の高まりを背景に、幼児を取り巻く現状を把握し、教育・保育の意義、保育者の役割や資質能力、職務内容等について理解する。また、グループワークやグループディスカッション等を通して職業への意欲を高め、さらに適正を判断し、早い時期から大きな方向性としての進路選択に資する保育者としてのあり方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国における今日の教育・保育の社会的意義を理解するとともに、保育者に求められる役割や資質能力を理解することができる。</li> <li>・保育者の職務内容の全体像や課せられる服務上、身分上の義務を理解することができる。</li> </ul>
教育課程総論	学校教育において教育課程が有する役割や機能、意義を理解するとともに教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。また、教育課程を編成するために必要な保育の視点を意識しながら、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領を基準として各園において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解することができる。</li> <li>・各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することができる。</li> </ul>
保育内容計画法Ⅱ	<p>幼児の発達や学びの過程を理解した上で、保育を展開していくには、保育者としてどのような知識や技術が必要であるかを考え、指導計画の意義と役割を明らかにし、保育実践に必要な指導計画のあり方について学修する。</p> <p>また、模擬保育の実施と振り返りを行うことで指導法についての理解を深めていく。</p> <p>模擬保育の際には、保育者役、幼児役、模擬保育の様子を観察する役、それぞれの視点からのレポートを書き、振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的には指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</li> </ul>
あそび学	乳幼児期における様々なあそびについて体験的に学び、あそびのレポートリーを増やす。授業で扱ったあそびのねらいや方法について概観し、あそびのポートフォリオを作成する。将来保育者となった際に自らがファシリテーターとなってあそびを展開するための礎を築く。1回の授業につき1つのあそびを学ぶことを原則とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期における様々なあそびを知り、それらをファシリテートすることができる。</li> <li>・授業で扱ったあそびのポートフォリオを作成し、多様な遊びを実践する活動を理解する。</li> </ul>
ピアノ A	<p>音符の種類や拍子などといった読譜に必要な音楽理論を学ぶほか、ハ長調・ヘ長調・ト長調のスケールやカデンツなどといった、基礎的な技術を学ぶ。</p> <p>また、幼児曲については、コードネームを用いた伴奏法を学ぶことで、多様な曲に対応できる力を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノ弾き歌いのために必要な基本的な音楽理論を理解し、主体的に実践へと繋げることができる。</li> <li>・ハ長調・ヘ長調・ト長調のカデンツとスケールを弾けるようになる。</li> </ul>

< 2年生 >

主要科目	特 長	到達目標
心身の発達と学習過程Ⅱ	<p>本講義では、発達心理学で学習したことを踏まえて、教育心理にもとづく学習理論や学習指導方法、学習意欲などについての講義を行います。特に乳幼児期を中心とした子どもにかかわる学習やそれに付随する知的発達を踏まえながら、保育現場で活用するために知識や情報を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解できる。</li> </ul>
子どもの保健	<p>本講義では、子どもの発育や発達のプロセスと乳幼児期によく見られる病気について理解し、健康の保持増進を図るために必要な知識を修得する。また、地域における母子保健活動を理解し、保育者としての役割と連携について考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの発育と発達のプロセスで、健康を阻害する疾病について理解し、健康支援の在り方について考えることができる。</li> <li>・ 母子保健に関する統計指標や関係機関の保健事業に関心を持ち、積極的に活用することができる。</li> </ul>
保育・教職実践演習（幼稚園）	<p>2年次後期に、各学生がこれまでの学修を振り返り、不足している知識や能力を確認して、目指すべき保育者像を明確にするとともに、履修カルテを踏まえて各教科別の知識や技能の向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者としての資質の向上および保育現場における実践力の向上を目的とし、実技および現場体験を通して保育者としての即戦力を身につける。</li> </ul>
ピアノC	<p>季節の歌や行事の歌の弾き歌いを学び、レパートリーを増やす。必要に応じて実習先から課された曲を扱う場合もある。</p> <p>コードネームのリズムパターンを応用した様々な伴奏形を学ぶことで、より豊かな表現を目指す。</p> <p>個人レッスンであることから、それぞれのレベルや必要な課題に応じた曲を学ぶことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節の歌や行事の歌のレパートリーを増やす。</li> <li>・ 様々な伴奏形があることを知り、各個人のレベルや、曲に応じた表現の伴奏ができるようになる。</li> <li>・ 単に弾き歌いをするだけではなく、子どもを想定して周囲へ視線を配らせることや、曲の前後の声かけといった、より実践的なスキルを身につける。</li> </ul>
総合保育演習	<p>1年次から学んできた保育に関する専門知識と技術や技能をもとに、自らの関心に応じて研究テーマを選択し、卒業研究として調査研究・創作活動を行う。また、これらを通して、保育に関する知識・技術を深める。その成果として、各々の研究活動を発表し学修内容の総まとめを行うことで保育者としての専門性の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育に関する専門知識を深める。</li> <li>・ 保育に必要な表現力を身に付け、スキルアップをはかる。</li> </ul>